

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4371200082	
法人名	特定非営利活動法人 憲友会	
事業所名	グループホーム さち	
所在地	熊本県上天草市大矢野町上字西大平7314番地	
自己評価作成日	平成28年 9月17日	評価結果市町村報告日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市北区四方寄町426-4
訪問調査日	平成28年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者、その家族、職員を大きな家の大家族の一員として生活を送っています。「ただいま」「いってらっしゃい」「気をつけて」が挨拶です。又、食事にも力を入れており、季節の旬の食材を取り入れている。裏の畑には、無農薬の野菜を植えて、メニューに入れており、入居者の皆さんに好評を得ている。園庭には、緑の芝生、花壇には、赤いハイビスカスが咲き乱れている。ホームの居間や食堂、入居者様の各部屋からは、青い海が見渡せ、入居者や家族、訪問者の方々から喜ばれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海を臨む静かな地に建つホームは、おしゃれな「家」を思わせる造りである。共有空間、居室等の掃除が行き届いており、入居者も来訪者もゆったりと気持ち良く過ごすことができる。開設から時を重ねるホームは入居者の高齢化や入替りもあり、一人ひとりの力をいかに引き出すかが課題とされているが、夜間職員の2名体制も継続され、家族との信頼関係も構築されている。継続した運営の中にも更なる職員の質の向上や人員配置に向け、今年度は書類整備や職員会議、職員研修に特に力を入れている。今後は入居者個々の身体能力をできるだけ低下させず活かすケアの継続に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基に、人生の功労者に敬意を表し個々を尊重しながら実践している。	理念は事務所の目につく場所に掲示し、職員は理念の理解と共有を図り、実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員が、地域の清掃活動等に積極的に参加し地域の方々と交流している。	入居者の高齢化や身体状況変化による外出が困難になりつつある中、職員の地域行事への参加や祭りの出し物披露訪問を受け入れる等、地域とのつながりが絶えない様に努めている。	地域に住む家族の来訪や、緊急時連絡先に地元消防団が記載されている等、地域の中のホームである姿が見られます。今後も交流の継続に努めてください。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	別荘地帯ではあるが、近隣の方々と交流を深めていて、認知症のことを理解していたいしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、課題になったのはミーティングや勉強会で取り上げ話し合い、次の会議で結果報告をしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議では、ホームの状況報告だけでなく職員の研修や行事についても報告を行い、意見を頂く機会も多い。行政・地域ともに参加頂くことで情報交換の場にもなっている。	会議には行政・地域と共に家族代表の参加がありますが、多くのご家族にも参加頂ける様、声掛けの工夫をされてみてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者の方達には、日頃より書類の分からない事や、ホームの日常的な問題等を相談にのってもらっている。	行政の担当職員には運営推進会議に出席してもらっている。日頃から質問や相談がある場合は連絡し、情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等を通じて、身体拘束の知識を共有し、身体拘束をしないケアを実践している。	今年度は特に勉強会にも力を入れており、マニュアルも見やすい場所に設置されている。職員は身体拘束の弊害を理解し、ケアに取り組むように努めている。日中の玄関施錠はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、勉強会で学んだ事を職員全員で虐待防止に取り組んでいる。	/	/

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が成年後見人制度を利用中で、主治医の病院のソーシャルワーカーと連携しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に詳しく説明を行い、又、改定時には、面会時や請求書送付時に手紙で説明をしている。不明の時には、その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の話をよく聞くようにし、家族の面会時に状況を報告し意見や要望を聞くようにしている。	入居者からの意思表示はだんだんと難しくなってきたが、寄り添いを大切に気持ちの汲み取りに努めている。家族の面会は多く、生活や健康状態について説明しており、意見や要望も聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングで、職員の意見や要望、提案出してもらい改善する様に努めている。	毎月の全体ミーティングで職員の意見や要望等を出す場としている。出された意見は検討し、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員に気を配り、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内の勉強会や研修にとどまらず、外部の研修に大いに参加してもらいスキル向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等に参加して、近況等を話し合っている。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の方達の要望をよく聞き、安全に安心して暮らしていける様に環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の施設訪問や入所時等で家族の要望や意見を聞き応えられる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者、家族のニーズに即したサービスに応えられる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人差はあるが、つわの皮むきや洗濯物のたたみ等を職員と共有し関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状態を把握し、家族と連絡を取りながら、入居者を支援する様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に住んでおられる、友人や知人が気軽に訪問できるように環境作りに努めている。	家族だけでなく地域の友人知人の来訪も見られる。入居者と家族の外出も見られるが、来訪しやすさも大切にし、開放的で明るく清潔な雰囲気の環境作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方達が気軽に会話を楽しまれる様に、居間・食堂にソファやイス等を配置している。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設、病院等に行かれた場合には、情報提供を行い、在宅復帰の場合は、ケアマネジャーに連絡を取り在宅生活がスムーズにいけるように情報提供をする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅時と同じように、入居者の生活リズムで過ごせる様に努め、意思表示が困難な方にも声かけ、身振りなどを行い、こちよく生活していただく様に努めている。	職員は入居者に寄り添うことを大切にし、日頃から入居者の思いや意向を把握するよう努めている。入居者は思い思いの生活リズムで過ごしており、家族の意向も汲みながらケアに臨んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者、家族ああ担当ケアマネジャーと話し合い又、情報提供書等で把握できる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人を見守りながら、状態を把握する様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体ミーティングや面会時の家族の意見、要望、情報を反映し、介護計画をたてている。	毎月の全体ミーティングでカンファレンスを行い、定期的にモニタリング、計画の見直しを行っている。日々の状態の把握や気づきの共有にも努めており、変化がある場合は都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態の把握や気が付いた事等をケース記録や業務日誌に記入して共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族から要望があればその都度、要望に応じた対応に努めている。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の区長さんや民生員の方に運営推進会議に参加してもらい協力、支援してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も、主治医を変更せず月1回の往診を受けておられている。殆どの方はホームの主治医であり月2回の往診を受けておられる。病院受診の際には、家族の協力のもと受診し報告にて情報を共有している。	現在は殆どの入居者は同じ主治医で往診を受けている。専門医受診は家族の付添いを基本とし、それぞれの情報の共有を密にすることで連携を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は在籍していないが、職員全員が入居者の体調等を把握し、体調不良等があった場合は主治医に連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供を行い、事業所でも対応可能であれば、看護サマリー等を提供してもらい、早期退院へのアプローチを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の意思確認書を作成し入居者、家族にホームで出来るケアについて説明し、同意の上に署名、捺印して頂いている。	入居時に家族と本人に重度化時のケアの説明を行っている。ホームで出来る事を明確にし、医師、家族、ホームの三者で話し合いを重ねながら、家族の意向を最優先した対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応は、勉強会等を行っているためあわず、落ち着いて行動する様に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の消防署立会いの避難訓練を実施している。入居者も全職員も参加し昼夜を想定して行なっている。	緊急時連絡先には地域消防団も記載があり、地域との連携もある。日頃の訓練が活かせるよう救急連絡シートや緊急時マニュアルも手元に準備している。熊本地震の高潮からの避難時には、職員の連携が発揮された。	

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重した言葉かけを行い、プライバシーに配慮した対応に努めている。	理念にもあるように人生の功労者に敬意を表し、尊重した言葉掛けや対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方達と会話を楽しむなかで、要望や思い等を気軽に聞ける様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者側の立場に立って、その人のペースで生活が出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服を選び、洋服に乱れがあれば整えている。二ヶ月に一回地域の美容師の方がカットしに来られている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の食材を使用して献立を立て、入居者の方に食べる喜びを楽しんでもらっている。又、入居者の能力に応じて、下ごしらえや下膳を一緒に行っている。	菜園で育てた季節の野菜をふんだんに使った献立により調理され、入居者の好みも考えられている。準備時にはリビングにも炊飯や煮物の香りがあり、入居者の楽しみとなっている。	入居者の状況により下拵えや後片付け等の参加は難しいとは思いますが、個々の力を少しでも引き出せる様、更なる声掛けや時間の共有等に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個人の摂取量を記録し、体調を考慮し適度の栄養と水分を食事とおやつで摂ってもらっている。水分に関しては、入浴後や暑いとき等は十分に摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には、声かけし口腔ケアを行い、自力では困難な方には、介助にて口腔ケアを行ったり、お茶や水分で口腔内を綺麗にしている。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用を減らす為、個々の排泄パターンを把握し早めの声かけを行い、自立されている方が失禁された時などは声かけをして手助けをしている。	オムツ使用の入居者も増えてきている状況ではあるが、なるべく自立での排泄を行なえる様声掛け等もやっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足の為、便秘になりやすいので個々にあった軽い運動や水分を補い食物繊維が多い食物を摂取する様に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯はあるが、汚染時や発汗した場合には、シャワー浴や清拭を行い清潔保持に努めている。	入浴時間は定めてはいるものの入居者にあわせることを基本としている。普段から清潔保持に気をつけており、シャワー浴や清拭は都度対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者個人に合った時間帯、特に昼食後自室にて休憩される様に声かけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者のケース記録に、薬の効能や副作用の処方箋を添付している。頓服等は、看護職員がいない為ケアマネジャが説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合った食事や、おやつを提供したり、近隣の散歩にて気分転換をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を考慮し、近隣への散歩や中庭での日光浴ができる様に努めている。又、家族の協力の下、病院受診や自宅への外出もある。	入居者の状況により全員での外出は難しくなっているが、個別に近隣への散歩や日光浴等で外気に触れる機会を作っている。ホーム前には海が広がり散歩の環境も良い。家族協力のもと外出も度々見られる。	

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでは、お金は預からず、欲しいものがあれば家族に依頼している。華族が県外に住んでおられる時には、家族同意の下、に買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった場合や、入居者が電話をかけたいと要望がある場合には、話ができる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関へのアプローチには、季節の花を植えていたり、共有スペースにはソファを設置し過ぎしやすい様に設置している。掃除や換気を行い、快適な環境作りに努めている。	玄関をはじめ敷地には木や花が手入れされており季節を感じる。共有スペースには所々にソファが設置され、思い思いにくつろぎながら景色も楽しめる。廊下や移動空間も広く車イス移動にも考慮されており、特に清潔に気配りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リタックスできる様に、ソファやイスが多く設置しており、職員も入居者の中に入りこぎやかな雰囲気をつくる様に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が以前より使用されていた家具等を持ち込み、居室内を居心地良く、くつろげる様に工夫している。	これまでの生活習慣を大切に、入居前に使用されていた生活用品や家具が持ち込まれており、個々の身体状況によりレイアウトされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のADLに合わせて、居間の段差を利用した日常リハを行っている。体調をみながら、見守りや全介助を行っている。		

グループホームさち

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容

2 目 標 達 成 計 画

事業者名 グループホームさち

作成日 平成28年 11月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	高齢の為に歩行不可、意欲の低下で居間でテレビを観たり、自室で過ごすことが多くなっている。	個々を尊重しながら、入居者様が散歩や日光浴、レクリエーション等に楽しく参加できる様にした	一人一人の体調を見、声かけをして、短時間でも日光浴、散歩等を促し楽しんで頂きたい。	1 2 ヶ月
2	23	家庭的な環境の中で介護している事によって入居者様の自立が最大限の目的であり、見守り介護、プライバシーの確保に努めている。	各利用者様の過去の人生と現在置かれている状況を踏まえて今後、入居者様の人生がいちばん幸せなものにする為に考えている。	地域の祭りで特に子供が参加している祭りが施設に来てもらい、話題提供したり言葉かけによって症状が和らいでくれる様に努めている。	1 2 ヶ月
3	35	別荘地帯なので近隣の協力は直ぐに得られないが、熊本地震の避難時に利用できるものがあつたが、人的避難を優先して使用する事が出来なかった。	入居者、職員が一丸になって、もっと効率よく避難が出来る様にする。	全体ミーティング、勉強会等を通じて、何処に何が有るかを常に把握し全職員と共有していく。	1 2 ヶ月
4	36	入居者様の個々を尊重しながら、その人に合った声かけ等をしていく。	理念にある様に、人生の功労者に敬意を表して、言葉かけや対応を行っていく。	馴染みの関係ではあるが、その人を尊重し、気配りをしながら言葉かけや対応に努めていく。	1 2 ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。